１９９３年度林原フォーラムへの案内
（テーマ）

文化尊重の国際医療協力
ーアジア多国籍医師団の理念と展開ー

（日時）１９９３年５月２０／２１／２２日の３日間
（場所）岡山市藤崎　林原藤崎研究所会議室
（分科会）

１）**国際医療協力の理念。**
国際医療協力は単なる医療技術移転ではなく、各文化のもつCURE-CARE-HEAL の概念についての医療文化を理解してこそ効果がある。文化の異なる国の医師が共同して医療協力にあたる場合また、文化の異なる国の患者を治療をする場合には医療文化の相互理解が必要である。アジア各国の医療文化について医師、文化人類学者、宗教者で比較検討し、国際医療協力の理念づくりを試みる。

２）**医療資源としての伝統医学。**
アジアの健康水準の向上と疾病治療に伝統医学は医療資源として大きな役割りを果たしている。文化に基盤をおく伝統医学を現代医学の立場から再評価を試みる。
緊急救援医療活動用伝統医学活用ガイドブックを作成する。

３）**アジア多国籍医師団の展開。**
アジアにおける災害、難民に関する過去のデーターの分析と、文化の異なる多国間医師ネットワークにもとづいた緊急救援医療活動の意義と役割を検証する。今後の展開に備えてシュミレーションを行なう。

（組織委員会）
１）黒住宗晴（黒住教教主）
２）Dr.Primitivo Chua(General Secretary of CCMAO,Philippines)
３）Dr.Dephanom Magnum(Dean of Public Health Dep.of Mahidor University,Thai)
４）Dr.Hakim Said(President of Hamdard Foundation,Pakistan)
５）Mr.Ramesh Pai(Resiter of Kusturba Medical College, India)
６）朔元洋（医療法人愛風会さく病院理事長）
７）菅波茂（医療法人アスカ会理事長）

（事務局）
701-12 岡山市楢津310-1　菅波内科医院内
１９９３年度林原フォーラム事務局
(Tel)0962-84-7676
(Fax)0862-84-7645

本年２月発足した伝統医学プロジェクト・チーフの朔元洋医師が林原フォーラム　９３のシンポジストの要請などのために５月２～６日訪韓した。以下はその報告である。

韓国の漢方医学の現状

韓国では、漢方医学は韓医学と呼ばれている。基本的には中国から伝来したもので日本の漢方と同じであるが、細かくみると韓国独特の改変が加えられている面もある。

韓医学の医師の養成は、独自の韓医学の大学で行われている。現在全国で１１の学校があり、毎年約５６０名の卒業生が送り出されている。現代医学とは独立しており、現代医学の医学部と併設されているのは、そのうちの３校にすぎない。６年間の教育カリキュラムの約３０％は、現代医学の知識を学ぶが、主に診断面に限られる。（ちなみに現代医学のカリキュラムには韓医学の内容は一切含まれていない。）　韓医師免許は現代医学の医師とは全く別のもので、韓医師は伝統薬しか処方できず、血液やレントゲンなどの現代医学的検査も施行できない。逆に現代医師は、伝統薬を使用できない。（この点、類似した制度を有する中国に比し、両者の役割の区分がより厳格になされている）。韓医学の見直しは、１９７２年の米中和解が一つの契機であったようである。医療保険制度が現代医療に導入されて以来、開業した時の収益性では保険の適用されない韓医師のほうが有利となったため、２年ほどまえから入学試験で韓医学部のほうが現代医学部よりも難しいという状況が生まれているという。

慶熙大学：　韓医学アカデミズムの代表として

筆者が訪問した慶熙大学は、最も古い韓医学部を誇り、かつ現代医学部や両学部をつなぐ東西医学研究所も併設されている。韓医学部の前身は１９４８年創立の東洋医科大学で、１９６６年に慶熙大学に統合された。東洋医科大学は韓医学の現代的教育機関としては最初のもので、韓医師免許制度も同大学の第一期卒業の１９５２年（当時は４年制）に施行された。１９６７年に現代医学の学部も創設された。

付属病院は、現代医学部門棟と韓医学部門棟が連結されているのが特徴的である。共に１階が外来で両部門の間は同一建物内のように行き来できる。病棟は現代医学が千数百床、韓医学は３５０床ある。

東西医学研究所は両医学の統合をめざして設立され、スタッフ１１名を有し、うち３名が韓医師、４名が現代医師、さらにチーフの閔炳一助教授を含め韓医学と現代医学両方の免許を有する医師が３名いる。韓医学棟の３階に臨床部門２１床があり、主に脳卒中などに現代治療と韓薬、針治療などを組み合わせた東西医学統合的入院治療がなされている。７階に基礎研究部門があり、動物実験を主体とした生理学、薬理学的研究が行われている。さらに別棟に韓薬エキス剤精製施設を有している。この種の施設としては韓国で最初につ

くられたものである。ここで精製された薬は院内でのみ使用される。ただし、全体としては、伝統的な煎じ薬のほうが多く使われている。

以上のように慶熙大学は、韓医学の最先端の中心的役割を果していることが実感された。その中でも特異的な位置を占める東西医学研究所の研究チーフである**閔炳一助教授に林原フォーラムのシンポジストを要請し、御了解を得る**ことができ、訪韓の最大の目的を達成することができた。

東大門一帯の韓薬市場と韓医学医院

京東（キョンドン）韓薬市場。１００軒以上の韓薬店が並び、壮観である。卸しが主なので薬も大きな麻袋のようなものに山積みになっている。朝鮮人参の専門店もある。店先にアルミ製の小型のタンクのようなものを数機並べている店もあるが、これは自動煎じ機で客の薬を煎じてあげるためのものだそうだ。

そこからすぐの東大門（トンデムン）の一角には、韓医学の医院が集中して軒を連ねる通りがある。韓医院はソウル市内全体に散在するが、この付近は昔から多数の医院が集合し有名で、患者も遠方からも来るのだという。東西研究所スタッフ劉先生のご厚意でその中の광일한의원 という医院を見学させていただいた。１階が薬局、２階が診察室と針治療などの処置室。患者は２階で韓医師の診察を受け、処方がだされると看護婦が処方箋を１階にもっておりるシステムであった。韓医学では漢方同様に脈診が重視されるが、脈診用の波形記録器が使用されていた。

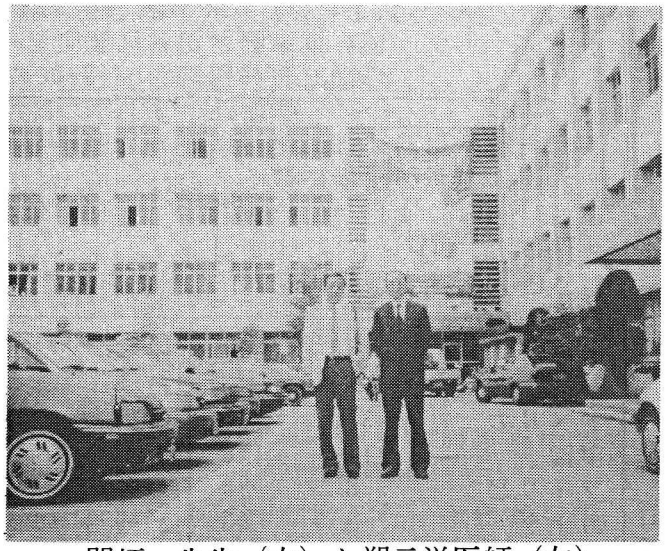
［以上の視察などに、慶熙大学予防医学教室崔重明先生（昨年林原産業医学フォーラムに参加）と前述の閔炳一先生に多大の御援助を頂いたほか、韓医学部学科長金光湖先生、광일한의원の柳先生ほかに御協力を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。］

ＡＭＤＡ　Ｋｏｒｅａを訪ねて

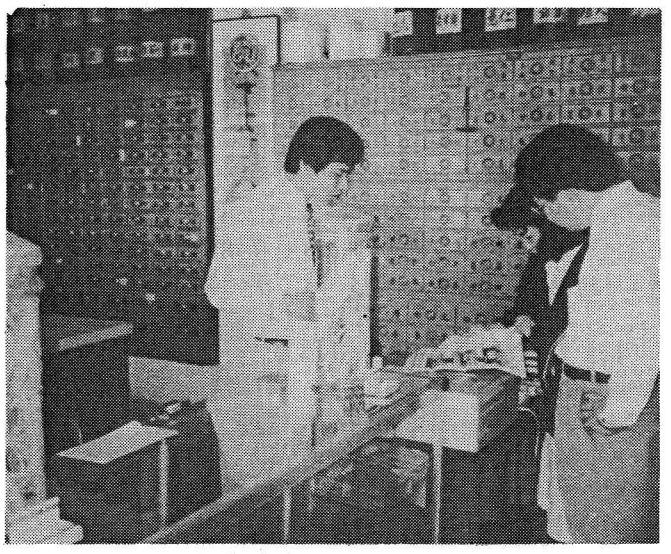
ＡＭＤＡ　Ｋｏｒｅａの支部長朱漣燻先生は折り悪くアメリカ出張中であったが、カンナム病院を尋ね、同僚の李在咏医師に面会した。１）林原フォーラムと２）ミャンマーおよびカンボジアへの医療チーム派遣の決定を伝え、韓国支部の積極的に支援・協力を要望した。当面、これらを含め、多国籍医師団の実現がＡＭＤＡ　International の最重要課題といえ、今秋予定される韓国でのＡＭＤＡビジネスミーテイングでも林原フォーラムを主要議題として取り上げられるようになどＡＭＤＡ　Ｊａｐａｎ執行部の希望を伝えた。

（伝統医学プロジェクトチーフ朔元洋）

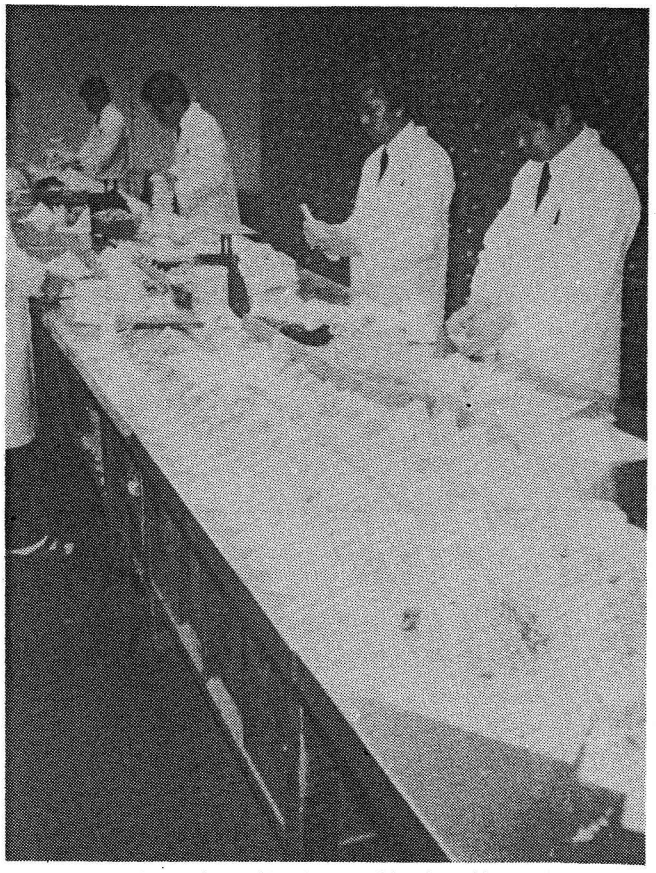
慶熙大学付属病院外観



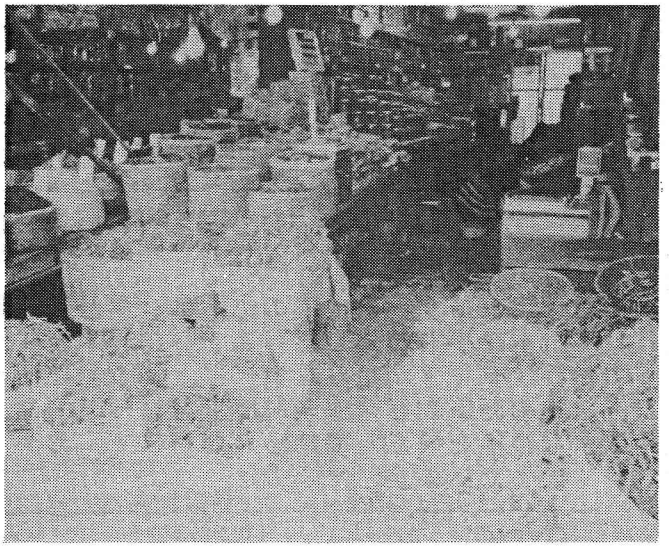
閔炳一先生（右）と朔元洋医師（左）
慶熙大学韓医科大学まえにて



韓医院の薬局



慶熙大学付属病院韓医学薬局



京東韓薬市場の店先